

都道府県・ 指定都市番号	36	都道府県・ 指定都市名	徳島県	研究課題番号・校種名	2 (5) ～校種～
				領域名	校種間連携
研究課題	<b>学校全体で取り組む研究課題</b> (5) 校種間の連携による教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名  (園児・児童・ 生徒数)	<small>きたじまちょうりつきたじまみなみようちえん</small> 北島町立北島南幼稚園 (93 人)  <small>きたじまちょうりつきたじまみなみしょうがっこう</small> 北島町立北島南小学校 (448 人)			学校・地域の特色及び実態等 住宅地が増え，都市化が年々進んでいる。幼児・児童は，明るく素直で，まじめにやるべきことは行うが，主体性に欠ける。保護者は，教育への関心が高く，PTA 活動は盛んで協力的である。	
所在地 (電話番号)	徳島県板野郡北島町江尻字宮ノ本 40-2 (088-698-2680)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="https://e-school.e-tokushima.or.jp/kitajima/es/kitajimaminami/html/htdocs/?page_id=157">https://e-school.e-tokushima.or.jp/kitajima/es/kitajimaminami/html/htdocs/?page_id=157</a>				
研究のキーワード	道徳教育 幼児と 1 年生～6 年生の交流活動 絵本の読み聞かせ 接続カリキュラム スタートカリキュラム				
研究結果のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼児と児童，幼稚園教職員と小学校教職員の関係が深まり，幼稚園から小学校へスムーズに移行できる環境が整ってきている。</li> <li>○ 絵本の読み聞かせ等の道徳的な視点に立った活動，幼小の交流活動と関連させた道徳科の授業等を行ったことで，幼児の道徳性の芽生えや児童の道徳性の育成に効果をもたらしている。</li> <li>○ 入学後の道徳科と関連させた「スタートカリキュラム (4 月～5 月)」をどのようにすればよいか検討中である。</li> </ul>				

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

豊かな心をもち，ふれ合い，ともに生き生き活動する子供の育成  
 ～道徳教育を中心とした心の教育による幼小連携～

### (2) 研究主題設定の理由

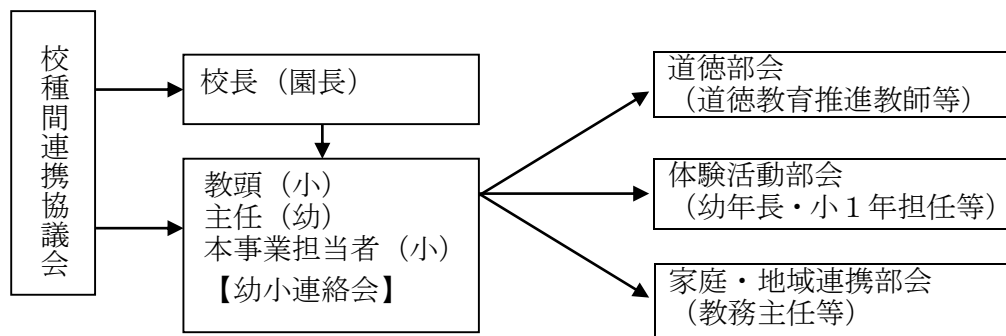
子供の発達と学びの連続性を確保するために，幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続が求められている。これまで北島町では，平成 26・27 年度の 2 年間，徳島県教育委員会の事業である「幼小・中連携推進事業 『学びのかけ橋』 プロジェクト」を実施してきた。本事業の成果として，幼稚園 (年長組) の 10 月から小学校 (第 1 学年) の 6 月までの間における「接続カリキュラム」を作成し，スムーズに幼稚園から小学校に移行できるよう教育活動が展開されたことや，幼児と児童の交流及び幼稚園と小学校の教職員同士の交流が計画的に行われたことで，幼児理解・児童理解が深まったことがあげられる。

本年度から小学校では，「特別の教科 道徳」がスタートした。昭和 33 年に特設された道徳が

教科化となった今、各校の道徳教育の取組も充実・発展させることが求められている。また、いじめ問題も増加傾向にあり、「規範意識」「生命尊重」「思いやり」といった道徳的価値に関する指導も重点的に行わなければならない。そのような現状では、心の教育においても幼小の連携が大切であり、幼児の道徳性の芽生えや児童の道徳性の育成を図る教育活動を計画的に実施していくことが必要である。

以上のことから、これまでの研究の成果を踏まえながら、道徳教育を中心とした心の教育を実施し、子供たちに豊かな心を育てたいと考え、本主題を設定した。

### (3) 研究体制



### (4) 1年目の主な取組

平成30年度	4月	幼小連絡会
	5月	合同運動会(幼・小), トマトの苗植え(幼・1年)
	6月	絵本の読み聞かせ(幼・6年)
	7月	トマトの収穫(幼・1年)
	9月	幼小連絡会, ジャガイモの種芋植え(幼・1年)
	10月	合同遠足(幼・1年), 空気でっぼうで遊ぼう(幼・4年), 絵本の読み聞かせ(幼・6年), 校種間連携協議会
	11月	わくわくフェスティバル(幼・1年・2年), 秋祭り(幼・1年), ジャガイモの収穫(幼・1年), ハロハロパーティ1(幼・6年)
	12月	ジャガイモパーティ(幼・1年), ハロハロパーティ2(幼・6年)
	2月	昔あそびをしよう(幼・1年・老人会・婦人会), 体験入学(幼・1年), 磁石で遊ぼう(幼・3年), 研究協議会, 校種間連携協議会
	3月	手作りゲームで遊ぼう(幼・5年), 幼小連絡会

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

道徳教育を中心に心の教育を行っていくためには、幼稚園と小学校との連携を図りながら、幼児と児童の実態に応じた効果的な教育活動を実践していく必要がある。そこで、次の3点から研究を進めている。

#### ① 心の教育における小学校教育を見通した幼稚園の指導について

幼稚園には小学校のように道徳科の授業はないが、遊びや様々な体験を通じて道徳性が芽生え育成されていく。そこで、様々な交流活動や体験活動、絵本の読み聞かせ等を計画的に行う。

- ・絵本の読み聞かせ
- ・1～6年生との交流活動
- ・園行事や体験活動
- ・保護者や地域の方との交流
- ・遊びを通して学ぶ仲間づくり

#### ② 心の教育における幼稚園の学びを踏まえた小学校の指導について

小学校では道徳科の授業において、主に読み物教材を活用しながら道徳性の育成を目的とした学習が行われる。また、様々な体験活動を通じて道徳性は育成されるが、道徳科の授業と関連を持たせることでその効果も大きくなる。そこで、次のような取組を実践する。

- ・ 道徳科の授業の工夫 ・ 幼児との交流活動 ・ 学校行事や体験活動
- ・ 保護者や地域の方との交流 ・ 「幼児の道徳性に係る様子の記録」を活用した学習

③ 幼小の教職員の連携による相互理解

幼小の教職員による相互理解の場を設け、次のような取組を実践する。

- ・ 幼稚園教育要領・小学校学習指導要領の理解
- ・ 事業の共通理解・検証（道徳性の芽生えを幼から小へとつないで養うという視点）

(2) 具体的な研究内容

① 心の教育における小学校教育を見通した幼稚園の指導について

ア 絵本の読み聞かせ

絵本の読み聞かせの効果として、想像力・感受性を豊かにする、人の気持ちがわかるようになるといったことが考えられる。そこで、あらゆる機会を通して絵本の読み聞かせを行っている。

（教職員による読み聞かせ）（ボランティアによる読み聞かせ）（児童による読み聞かせ）

イ 幼児と1年生～6年生の交流活動

幼児と1年生はペアを固定し、年間を通じて交流活動を行っている。当初はぎこちないところもあったが、交流活動の回を重ねるうちに仲良くなり、互いに理解し合える関係が築かれていった。交流活動では、遠足や秋祭りといった一緒に楽しく過ごす活動と、トマトやジャガイモといった野菜と一緒に協力しながら育てる活動等を実施した。交流活動の場所も当初は幼稚園で行っていたが、徐々に小学校での活動を多くし、幼児が小学校に慣れ親しめるよう配慮した。

また、2年生～6年生も学年ごとに幼児との交流活動を行っている。活動内容もできるだけ各教科等で学習したことを生かすようにし、幼児が楽しく活動しながら小学校での学びについても知ることができるようにした。交流活動での教科等は、生活科、理科、学級活動、家庭科等である。

このような交流活動を実施することで、幼児が小学校への親しみや安心感を抱くとともに、異学年の多くの人との触れ合いによって豊かな心も育まれている。その表れとして、普段の生活の中でも思いやりのある言動や協力的な態度が多く見られるようになってきている。

② 心の教育における幼稚園の学びを踏まえた小学校の指導について

ア 道徳科の授業の工夫

道徳科の授業によって道徳性は育成されるが、授業と体験活動と関連させることで効果も大きくなる。そこで、道徳科の授業と幼児との交流活動とを関連させた学習を展開している。授業中の発言や道徳ノートの記述からもその効果が伺える。

イ 幼児との交流活動

幼児との交流活動を実施することで、小さい子供への関わり方や相手を気遣う態度等を身に付けることができ、どの学年の児童にも親切心や思いやりの心が育ってきている。特に交流活動の多い1年生は、交流活動のたびにワークシートに感想等を記しているが、その内容についても深まりが見られるようになってきている。

ウ 学校行事や体験活動

入学後に1年生と2年生がペアになって学校探検を行ったり、6年生が給食や掃除のお世話をしたり、他の学年の児童も集会活動等を通してできるだけ新入生との関わりを持つよう

にしている。

#### エ 「幼児の道徳性に係る様子の記録」を活用した学習

幼児の日頃の様子を、教職員が書き留めるようにしている。特に、小学生との交流活動、保護者や地域の方との交流活動等における幼児の様子を具体的に記している。それぞれの幼児の記録を入学後の学校生活や道徳科の学習に生かせるようにする。

### ③ 幼小の教員の連携による相互理解

幼小の教職員による相互理解の場を設け、次のような取組を実践している。

#### ア 教員相互の保育参観および授業参観

幼稚園教員が小学校を小学校教員が幼稚園を理解するために、保育や授業を参観した。

#### イ 幼稚園教育要領・小学校学習指導要領の理解

小学校学習指導要領と幼稚園教育要領を理解するための研修会を開いた。

#### ウ 事業の検証

本事業では、「幼稚園と小学校の連続性のある教育活動の推進」「心の教育における幼稚園と小学校の連携」の2点が研究の柱となっている。そこで次のように検証する。

(幼稚園と小学校の連続性のある教育活動の検証)

「スタートカリキュラム(4月～6月)」を基に実践し、幼稚園から小学校への移行がスムーズにできたか、主に教職員のアンケート等によって検証する。

(心の教育における幼稚園と小学校の連携の検証)

「接続カリキュラム(10月～6月)」に基づき、幼児の道徳性の芽生えや児童の道徳性の育成を図る教育活動を計画的に実施していくことで、幼児・児童の実態の変容を捉える。主に保護者のアンケート等によって検証する。

## 3 研究の成果と課題

- 小学校全学年の児童と幼児との交流活動を実施したことで、幼児と児童の関係が深まり、幼稚園から小学校への移行がスムーズ行える環境が整ってきている。
- 幼稚園の教職員は小学校教育について、小学校の教職員は幼稚園教育について関心を持ち、互いの教育活動への理解が深まってきた。
- 絵本の読み聞かせや交流活動等を実施することで、思いやりのある言動や協力的な態度が多く見られるようになり、豊かな心が育ってきている。
- 道徳科の授業と幼児との交流活動を関連させることで、児童の道徳性の育成において効果をもたらしている。
- 交流活動のねらいや目的を明確にし活動内容も見直すなどして、幼児・児童の学びを深める必要がある。
- 幼児の見取りを適切に行い、理解を深めたり共有したりするための手立てが必要である。
- 幼児の心の成長を小学校教育につなげていくための工夫が必要であり、そのことをスタートカリキュラムにどのように生かすのか検討しなければならない。

## 4 今後の取組

- ・道徳科と関連させたスタートカリキュラムを作成し、実践を通してその効果について検証する。
- ・各学年の交流活動や道徳科の学習の時期や内容を見直し、改善を図る。